

1 全体評価

項目	修正案	修正前（7月25日分科会）	修正理由
1 総評			
	S評価：特筆に値する、大いに評価、大変評価 A評価：高く評価		用語の統一
	東京都立産業技術研究センター（以下「都産技研」という。）	東京都立産業技術研究センター（以下「都産技研」という。）	前回の分科会の意見を反映した修正（以下、全て「都産技研」に修正）
	技術相談や依頼試験、機器利用で過去最高の中小企業支援の実績を上げた。	技術相談や依頼試験、機器利用で着実な実績増を達成した。	前回の分科会の意見を反映した修正（過去最高を達成）
	加えて、参画機関等の管理法人として競争的外部資金（経済産業省平成24年度補正予算事業）の獲得に取り組み、試験機器等設備を強化した。	加えて都産技研は、参画機関の管理法人として事務局運営に取り組み、競争的外部資金（経済産業省（補正予算・関東））を獲得し、機器整備を行った。	前回の分科会の意見を反映した修正（事務局運営の評価は連携にも該当のため、MTEP事業では機器強化を実施を評価）
	（略）産業人材の育成では、既存のセミナー・講習会の内容の充実に加え、将来の大きな波及効果が（略）	（略）産業人材の育成では、将来の大きな波及効果が（略）	前回の分科会の意見を反映した修正（セミナー例示を追加）
	（略）高付加価値化で競う都内中小企業が、技術力の高い製品を製造・販売し続けられるよう、積極的な支援の継続を期待する。	（略）高付加価値化で競う都内中小企業が、技術力の高い製品を製造・販売し続けられるよう、積極的な支援を期待する。	確定した評価を踏まえた修正（「業務全体が優れた進捗状況にある」平成25年度評価も平成24年度評価と同じ）
	また、機器整備においては、支援事業、研究開発における活用状況の把握はもとより（略）	また、機器整備においては、支援事業、研究開発における稼働状況の把握はもとより（略）	より適切な表現とするための修正（「稼働」は機器の運転状況に限定されるため）
2 中小企業への技術支援・研究開発及び法人の業務運営等について			
技術支援	技術相談や依頼試験、機器利用で過去最高の中小企業支援の実績を上げた。	技術相談や依頼試験、機器利用で着実に中小企業支援の実績増を達成した。	前回の分科会の意見を反映した修正（過去最高を達成）
	（略）様々な拡充努力により、利用実績を大幅に増加させ、利用者の高い満足を得ているのは特筆に値する。	（略）様々な拡充努力により、利用実績を大幅に増加させ、利用者の高い満足を得ているのは高く評価できる。	用語の統一（評定S）
	（略）「3Dデジタルものづくり支援」を柱に事業を推進した結果、利用実績は過去最高となった。	（略）「3Dデジタルものづくり支援」を柱に事業を推進した結果、利用実績が年々増加している。	前回の分科会の意見を反映した修正（過去最高を達成）
	今後の積層造形の技術革新等を見据え、中小企業の高速造形機活用の高度化を継続していただきたい。	今後の積層造形の技術革新を見据え、金属材料を用いた高速造形機の導入と技術支援の充実に期待する。	より適切な表現とするための修正（法人の自主性を尊重し具体事例を削除）
	オーダーメイド開発支援でも中期目標を大幅に上回り過去最高の実績を上げたことに加え、共同研究に結び付いた事例が（略）	オーダーメイド開発支援でも年々実績が伸びているとともに、共同研究に結び付いた事例が（略）	前回の分科会の意見を反映した修正（過去最高を達成）
	加えて、参画機関の管理法人として競争的外部資金（経済産業省平成24年度補正予算事業）を獲得し、試験機器等設備を強化した。	加えて機器整備において、都産技研は、参画機関の管理法人として事務局運営に取り組み、競争的外部資金（経済産業省（補正予算・関東））を獲得した。	前回の分科会の意見を反映した修正（事務局運営の評価は連携にも該当のため、本項目は機器強化を実施を評価）

項目	修正案	修正前（7月25日分科会）	修正理由
技術支援	（略）中小企業製品の海外規格への適合支援を充実させた事は、 <u>大いに</u> 評価できる。	（略）中小企業製品の海外規格への適合支援を充実させた事は、 <u>高く</u> 評価できる。	用語の統一 （評定S）
	今後も、機器整備やサービス品質向上のため、支援事業、研究開発における機器の <u>活用</u> 状況の把握はもとより、・・・	今後も、機器整備やサービス品質向上のため、支援事業、研究開発における機器の <u>稼働</u> 状況の把握はもとより、（略）	より適切な表現とするための修正 （「稼働」は機器の運転状況に限定されうするため）
連携の推進	<u>（略）きめ細かな取組を推進していることは大いに評価できる。MTEP事業の拡充において1都10県の公設試験研究機関を取りまとめ、競争的外部資金（経済産業省平成24年度補正予算事業）の予算を獲得するなど、他の支援機関との連携でイニシアティブを発揮したことも特筆に値する。</u>	（略）きめ細かな取組を推進していることは <u>高く</u> 評価できる。	用語の統一 （評定S） 前回の分科会意見を反映した修正 （連携におけるイニシアティブの発揮を評定説明に記載）
	今後も、連携を活用し、 <u>連携機関との協力による中小企業支援の充実を期待する。</u>	今後も、連携を活用し、 <u>都産技研ならでの共同支援メニューの開発に結び付けるなど、成果の充実に期待したい。</u>	事実確認による結果を踏まえた修正 （連携協定の中で業務内容は規定済み。今後の展開は主旨を踏まえ「充実」で表現）
研究開発の推進	（略）研究成果の普及に努めていることは <u>高く</u> 評価できる。また、（略）赤色ガラス「茜 <u>硝子</u> 」の開発を事業化させるなど、（略）	（略）研究成果の普及に努めていることは <u>大いに</u> 評価できる。また、（略）赤色ガラス「茜 <u>ガラス</u> 」の開発を事業化させるなど、（略）	用語の統一 （評定S） より適切な表現とするための修正 （茜硝子は固有名詞）
産業人材の育成	これは、 <u>既存セミナー・講習会の内容を充実したことに加え、</u> 将来の大きな波及効果が見込まれる（略）	これは、将来の大きな波及効果が見込まれる（略）	前回の分科会の意見を反映した修正 （セミナー例示を追加）
情報発信・情報提供	「世界に勝つものづくり」の開催、事業成果PR冊子「製品化事例集」 <u>や都産技研を一般の方に向けてPRするための商業書籍「都産技研の挑戦」</u> などを新たに作成した事に加え（略）	「世界に勝つものづくり」の開催 <u>や</u> 、事業成果PR冊子「製品化事例集」などを新たに作成した事に加え（略）	前回の分科会の意見を反映した修正 （商業書籍の明記）
	（略）「チリン」を <u>自社開発</u> し、（略）ブランドの確立に取り組んだことは、 <u>大変</u> 評価できる。	（略）「チリン」を <u>作成</u> し、（略）ブランドの確立に取り組んだことは、 <u>高く</u> 評価できる。	表記の統一 確定した評定を踏まえた修正 （評定S）
	<u>また、都内中小企業のグローバル市場での競争を踏まえ、海外展示場での事業成果発表や海外学会における技術発表等を通じ海外の現地市場のニーズ把握を行い、国際的な価格や技術水準を意識した支援活動につなげるなど、中小企業の海外展開に資する情報発信も期待したい。</u>	<u>加えて、都内中小企業のグローバル市場での競争を踏まえ、都産技研でも海外展示場で事業成果を発表するとことに加え、合わせて海外の現地市場のニーズ把握についても行き、国際的な価格と技術水準を意識した支援活動など、中小企業の海外展開に資する情報発信を期待したい。</u>	より適切な表現とするための修正 （現地ニーズ把握の手段を展示会出展に限定しない）
法人の業務運営	（略）BCP対応訓練を新たに行い、 <u>危機</u> 管理体制の強化を図ったことは評価できる。	（略）BCP対応訓練を新たに行い、 <u>安全</u> 管理体制の強化を図ったことは評価できる。	より適切な表現とするための修正 （安全管理は一般的に労働災害などで使用する用語）
	<u>今後も業務運営の改善、効率化の更なる推進に加え、危機管理に対しても万全に臨まれることを期待する。</u>	<u>なお、組織運営では、今後も日本経済が女性の力を必要としていることから、引き続き女性職員が活躍しやすい職場環境の維持に向け、配慮して頂きたい。</u>	前回の分科会の意見を反映した修正

項目	修正案	修正前（7月25日分科会）	修正理由
脚注（3） EMC	<u>(Electro Magnetic Compatibility)</u>	<u>(Electromagnetic Compatibility)</u>	より適切な表現とするための修正
脚注（4） 環境試験機器	温湿度、冷熱衝撃、 <u>振動、EMC等様々な環境中で材料や製品の性能を試験する機器。</u>	<u>高温、低温、温・湿度、冷熱衝撃等様々な環境の中で素材の変化を試験する機器。</u>	事実確認による結果を踏まえた修正

2 項目別評価

項目	修正案	修正前（7月25日分科会）	修正理由
【項目1】 技術相談	（略）広範囲な業界から多岐に渡る相談に対応した結果、 <u>過去最高の実績を上げた。</u> （略）ご利用カードの発行件数も高水準に推移しており <u>（削除）</u> 評価できる。	（略）広範囲な業界から多岐に渡る相談に対応した結果、 <u>着実な実績増を達成した。</u> （略）ご利用カードの発行件数も高水準に推移しており <u>大いに</u> 評価できる。	前回の分科会の意見を反映した修正 （過去最高を達成）
【項目2】 依頼試験	<u>試験機器の追加やJCSS再登録・VLAC認定による試験の実施等精力的な対応を行った結果、過去最高の試験に対応した。</u> ブランド試験も高速通信試験とめっき・塗装複合試験の2分野を追加して（略）	ブランド試験に高速通信試験とめっき・塗装複合試験の2分野を追加して（略）	前回の分科会の意見を反映した修正 （過去最高を達成）
	（略）実需を的確に捉えた結果といえ、 <u>経営戦略は大いに評価できる。</u> 今後も試験内容の更なる充実を期待する。	（略）実需を的確に捉えた結果といえ、 <u>経営戦略を高く評価する。</u> 今後も試験内容の更なる充実が望まれる。	用語の統一 確定した評定を踏まえた修正 （評定S）
【項目3】 機器利用	高速造形機や環境試験機など時代に適合した機器を <u>活用し、過去最高の利用実績をに対応した。</u>	高速造 <u>型</u> 機や環境試験機など時代に適合した機器を <u>導入した。</u>	前回の分科会の意見を反映した修正 （過去最高を達成）
	（略）高い満足度を達成していることは特筆に値する。 <u>とりわけ、生活関連産業のニーズに対応した生活技術開発セクターの開設と利用拡大は高く評価できる。</u> 今後も、当サービス利用者の声などにより、（略）サービスの充実を期待する。	（略）高い満足度を達成していることは特筆に値する。今後も、当サービス利用者の声などにより、中小企業を取り巻く状況を適確に分析し、新たなニーズに対応したサービスの充実が <u>望まれる。</u>	総評との整合 （生活技術開発セクターの追記） 確定した評定を踏まえた修正 （評定S）
【項目4】 高度分析開発セクター	依頼試験実績の対前年度比減少については、その原因 <u>分析</u> と対応が望まれる。（略）利用者のすそ野拡大に向けた取り組みも実績に結び付き、 <u>（削除）</u> 評価できる。	依頼試験実績の対前年度比減少については、その原因と対応が望まれる。（略）利用者のすそ野拡大に向けた取り組みも実績に結び付き、 <u>大いに</u> 評価できる。	前回の分科会の意見を反映した修正
【項目5】 システムデザインセクター	<u>システムデザインセクターの利用実績は中期計画の目標値を大幅に上回り、過去最高となった。</u> 商品企画から販売促進まで一貫したデザイン支援に加え、高速造形機等を活用した「3Dデジタルものづくり支援」など、（略）	商品企画から販売促進まで一貫したデザイン支援に加え、高速造形機等を活用した「3Dデジタルものづくり支援」など、（略）	前回の分科会の意見を反映した修正 （過去最高を達成）
	今後は積層造形の技術革新などを見据え、 <u>中小企業の高速造形機活用の高度化を継続していただきたい。</u>	今後は積層造形の技術革新などを見据え、 <u>金属材料を用いた高速造形機の導入と導入機器に対応する新たな技術支援のノウハウの蓄積などが期待される。</u>	より適切な表現とするための修正 （法人の自主性を尊重し具体事例を削除）

項目	修正案	修正前（7月25日分科会）	修正理由
【項目6】 オーダーメイド開発支援	中期計画目標を大幅に上回る <u>過去最高の実績</u> となっており <u>大変</u> 評価できる。	中期計画目標を大幅に上回る <u>事業実績</u> となっており <u>高く</u> 評価できる。	前回の分科会の意見を反映した修正 (過去最高を達成)
	(略) 支援にあたっては、品質はもとより、価格も意識した取組 <u>も期待する</u> 。	(略) 支援にあたっては、品質はもとより、価格も意識した取組 <u>が望まれる</u> 。	確定した評定を踏まえた修正 (評定S)
【項目7】 製品開発支援ラボ	(略) 製品化・事業化件数が累計で49件と中期計画目標を上回っている点は <u>高く</u> 評価できる。本事業は都内中小企業にとって <u>大変有意義な事業</u> である。そのため、大学研究者の <u>協力を得る</u> など、先進的な利用者を応援するための仕組みづくりを行い、(略)	(略) 製品化・事業化件数が累計で49件と中期計画目標を上回っている点は <u>大いに</u> 評価できる。本事業は都内中小企業にとって <u>大変有意義な事業</u> である。そのため、大学研究者を <u>巻き込む</u> など、先進的な利用者を応援するための仕組みづくりを行い、(略)	用語の統一 (評定A) 前回の分科会の意見を反映した修正
【項目10】 特許	(略) 出願件数と登録件数は順調な伸びを示して <u>おり</u> 、使用許諾率も前年度より増加させて <u>いる</u> 。	(略) 出願件数と登録件数は順調な伸びを示して <u>いる</u> 。使用許諾率も前年度より増加させて <u>おり評価</u> できる。	前回の分科会の意見を反映した修正 (評定A) ※項目に評価無い状態
	(略) 定期的な見直しを継続するなど、 <u>今後とも</u> 適切な管理が望まれる。	(略) 定期的な見直しを継続するなど、適切な管理が望まれる。	確定した評定を踏まえた修正 (評定A)
【項目11】 国際規格対応支援	支援によるCEマーキング取得といった成果事例も生じており、 <u>大いに</u> 評価できる。 <u>海外規格は、CEマーキング、RoHS、中国規格等種類も多く、かつ、取得に当たっての文書作成も大変な労力を要することから、本事業は中小企業の海外展開に大変有効な支援である。(以下削除)</u>	支援によるCEマーキング取得といった成果事例も生じており、 <u>高く</u> 評価できる。 <u>引き続きの奮闘を期待したい</u> 。	前回の分科会の意見を反映した修正 (海外規格に関する表記の追加)
【項目12】 技術審査	<u>多くの自治体や商工団体が実施する助成事業や表彰制度での技術審査の受託</u> においては、他の公設試験研究機関と比べても(略)相手機関から依頼が多数あったものと <u>高く</u> 評価できる。(略)産業への貢献度の把握を新たに始めたことも評価できる。	自治体等からの技術審査の受託においては、 <u>3,576件</u> と他の公設試験研究機関と比べても(略)相手機関から依頼が多数あったものと評価できる。(略)産業への貢献度の把握を新たに始めたことも <u>高く</u> 評価できる。	前回の分科会の意見を反映した修正 (実施内容の追記、件数の削除)
【項目13】 産学公連携支援 (東京イノベーションハブ、マッチングの場)	東京イノベーションハブについては、前年度を上回る講演会等を開催して <u>おり</u> 、 <u>年度計画を順調に実施している</u> と認められるが、まだ増加は可能と思われる。	東京イノベーションハブについては、前年度を上回る講演会等を開催した <u>が</u> 、まだ増加は可能と思われる。	確定した評定を踏まえた修正 (評定B)
	(略) 産学と取り組んでいる連携事業が(略)	(略) 産学 <u>公</u> と取り組んでいる連携事業が(略)	事実確認による結果を踏まえた修正 (産学公の「公」は都産技研を意味する)
	(略) 中小企業支援に活用されるよう、 <u>今後とも</u> 目的達成の検証を常に行いつつ、引き続き事業を進めていただきたい。	(略) 中小企業支援に活用されるよう、目的達成の検証を常に行いつつ、引き続き事業を進めていただきたい。	文章の意味を明確化するための修正 (目的外使用の誤解を回避)
【項目14】 産学公連携支援 (コーディネーター、異業種交流会等)	(略) ほぼ前年度並みを維持して <u>おり</u> 、 <u>年度計画を概ね順調に実施している</u> ものと認められる。	(略) ほぼ前年度並みを維持した。	確定した評定を踏まえた修正 (評定B)

項目	修正案	修正前（7月25日分科会）	修正理由
【項目15】 他機関との連携	MTEP事業の拡充においても、1都10県の公設試を取りまとめ、地域新産業創出基盤強化事業の予算を獲得するなど、他の支援機関との連携においてイニシアティブを発揮しており、特筆に値する。	また、都産技研は、広域首都圏1都10県の管理法人として経済産業省（関東）補正予算を獲得し、機器整備を行い、MTEP事業の充実に貢献したことは大いに評価できる。	前回の分科会意見を反映した修正 （連携におけるイニシアティブの発揮を評定説明に記載）
	今後も連携を活用し、連携機関との協力による中小企業支援の拡充を期待する。（以下削除）	今後も連携を活用し、都産技研ならではの共同支援メニューの開発や、成果に結びつくことを期待する。なお、連携にあたっては東京都の中小企業全体の産業力が強化されることを期待する。	事実確認による結果を踏まえた修正 （連携協定の中で業務内容は規定済み。今後の展開は主旨を踏まえ「充実」で表現） 文章の意味を明確化するための修正 （修正案に内容収斂）
【項目16】 基盤研究	（略）成果事例も見られたのは高く評価できる。「技術シーズ集」の刊行、学協会等での発表等を通じて研究成果の普及にも努めている。	（略）成果事例も見られたのは大いに評価できる。更に、「技術シーズ集」の刊行、学協会等での発表等を通じて研究成果の普及にも努めており、次年度以降において、活用促進が期待される。	用語の統一 （評定A） 前回の分科会の意見を反映した修正
【項目17】 共同研究	共同研究を製品化・事業化に結び付けるには、その後の改善に対する相互協力が必要不可欠であるが、（略）や「茜硝子」など製品化・事業化に結びつく事例が出ており、高く評価できる。	共同研究を製品化・事業化に結び付けるには、特許の取得や、その後の改善に対する相互協力が必要不可欠であるが、（略）や「茜ガラス」など製品化・事業化に結びつく事例が出ており、大いに評価できる。	用語の統一 （評定A） 前回の分科会の意見を反映した修正
	今後は、外部資金の獲得や成果の普及となる学会等の発表において、より高水準なものをターゲットとした積極的な応募、申請活動が望まれる。	今後は、科研費申請や学会発表などについて、よりレベルの高いものをターゲットとした応募、申請活動が望まれる。	文章の意味を明確化するための修正 （産技研の共同研究目的と学術的要素の強い科研費は必ずしも合致しない）
【項目18】 外部資金導入研究・調査	科研費申請団体としての要件確保のため、（略）	科学技術研究費申請団体としての要件確保のため、（略）	前回の分科会の意見を反映した修正 （科研費は一般用語）
	今後も、都産技研の研究戦略に沿った形での研究員の主体的な研究活動を引き出しつつ、研究・調査の推進を図られたい。	今後も、研究員の主体的な研究活動を引き出しつつ、研究・調査の推進を図られたい。	文章の意味を明確化するための修正
【項目19】 技術者の育成	これは、海外展開支援セミナーやサービス産業向け支援セミナーなど、既存のセミナー・講習会の内容を充実したことに加え、将来の大きな波及効果が見込まれる重点4分野（略）ニーズを反映させたためと大いに評価できる。	これは、将来の大きな波及効果が見込まれる重点4分野（略）ニーズを反映させたためと高く評価できる。	前回の分科会の意見を反映した修正 （セミナー例示を追加） 用語の統一 （評定A）
	今後も、メディアや金融機関、業界団体等との日頃の交流を活かした積極的なPRを行い、多方面から参加者を増やすことを期待する。	今後も、メディアや金融機関、業界団体等との日頃の交流を活かした積極的なPRを行い、多方面から参加者を増やすことが望まれる。	確定した評定を踏まえた修正 （評定S）
【項目21】 情報発信、情報提供	シンポジウム「世界に勝つものづくり」の開催、事業成果PR冊子「製品化事例集」や都産技研を一般の方に向けてPRするための商業書籍「都産技研の挑戦」の発行などを新たに作成したことに加え、（略）ブランド確立に取り組んだことは大いに評価できる。	シンポジウム「世界に勝つものづくり」の開催や事業成果PR冊子「製品化事例集」などを新たに作成したことに加え、（略）ブランド確立に取り組んだことは高く評価できる。	前回の分科会の意見を反映した修正 （商業書籍の明記）

項目	修正案	修正前（7月25日分科会）	修正理由
【項目21】 情報発信、情報提供	(略) 認知度向上に取り組むことを期待する。 <u>(削除)</u>	(略) 認知度向上に取り組むことを期待する。また、その際には、やや固い印象を受ける「都産技研」の名称に、柔らかなキャッチフレーズを合わせてPRする等の工夫も引き続き行っていただきたい。	より適切な表現とするための修正 (法人の自主性を尊重し具体事例を削除)
【項目22】 組織体制及び運営	(略) 的確な運営がなされていると高く評価できる。	(略) 的確な運営がなされていると大いに評価できる。	用語の統一 (評定A)
	(略) 中小企業の海外展開に合わせた支援を行うためにも、国内外の展示会出展に伴う職員の派遣などを通じて現地の市場ニーズの把握に努めることを期待する。	(略) 中小企業の海外展開に合わせた支援を行うためにも、国内外の展示会に出展し、職員の派遣を通じて現地の市場ニーズの把握に努めることを期待する。	より適切な表現とするための修正 (現地ニーズ把握の手段を展示会出展に限定しない)
	<u>(削除)</u>	なお、都産技研の中期計画の記載事項ではないが、技術支援3事業と、将来を見据えた研究開発の双方に対応する工夫を続けられるよう、男女共同参画を踏まえた人事政策を推進することが望まれる。	前回の分科会の意見を反映した修正
【項目24】 危機管理対策の推進	(略) <u>危機</u> 管理体制の強化を図ったことは高く評価できる。	(略) <u>安全</u> 管理体制の強化を図ったことは高く評価できる。	より適切な表現とするための修正 (安全管理は一般的に労働災害などで使用する用語)